

The Millennials Shibuya

設計：トサケン

新たなワークスタイルを描く
コワーキングスペース

カプセルホテル「The Millennials」は、「未来が見える宿泊体験」をコンセプトに、京都・三条で開業。次いで、東京・渋谷に「The Millennials Shibuya」をオープンした。国内外のミレニアル世代を主なターゲットとし、彼らが求める「合理性」「多様性」「自由」といった世代観を表現している。

同ホテルの最大の特徴は、独自開発した宿泊ユニット「スマートボッド」。IoTを搭載したミニマルで多機能なスマートボッドが、通常のカプセルとは異なる、合理的でユニークな宿泊体験を提供する。

一方、客室外での体験価値を高めるため、「眠るまでを共用部で過ごす」をテーマに、延べ床

面積の約20%を共用部に割いている。セルフキッチン付きラウンジは、モルタルを基調としたシンプルなお空間。そこに大理石や陶板などのマテリアル、RGB照明やデジタルサイネージを組み合わせて、渋谷の街が持つ「混沌」や「雑踏感」を表現した。

3階には、会員と宿泊者が利用可能なコワーキングスペース「andwork」を備える。多目的空間を想定し、ラウンジとは異なるニュートラルな設えに可動式家具を配置。ネオンアートを散りばめて、モダンかつポップにまとめた。

DATA

設計：トサケン 本多健介 登坂貴之

設計協力：グラフィックデザイン/ライ 照明計画/モデュレラス

施工：ラウンジ、コワーキングスペース/録音デザイン

宿泊部/ジック

所在地：東京都渋谷区神南1丁目20-13 Gビル渋谷01 3

～10階

工事種別：内装のみ 全面改築

床面積：1361.28㎡/各階170.16㎡

工期：2017年9月1日～2018年3月14日

営業内容

開業：2018年3月15日

チェックイン/アウト：午後3時/午前10時

電話：(03)6824-9410

経営・運営者：株式会社グローバルエージェンツ

客室数：120室

主な客室料：4000円～

主な付帯施設：セルフキッチン コワーキングスペース (MTG

ルーム、PHONEブース、ロッカー) テラス コインク

ンドリー

主な仕上がり材料

床：黒モルタル金ゴテ仕上げクリア塗装 モルタル金ゴ

テ仕上げクリア塗装 タイルカーペット貼り

幅木：SUS、HL 鋼板CL ソフト幅木

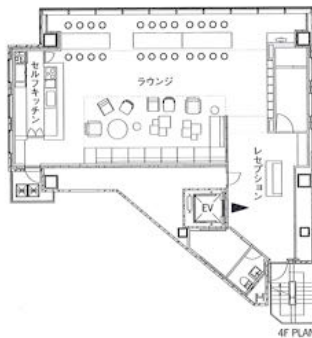
壁：モルタル金ゴテ仕上げクリア塗装 磁器質タイル貼

り 不燃突板貼り ケーカル板下地AEP グレミー

ラック貼り クロス貼り 大理石貼り

天井：スケルトン AEP

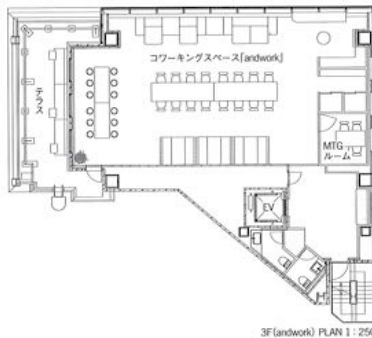
スマートボッド：本毛セメント板組み立てクロス貼り



4F PLAN

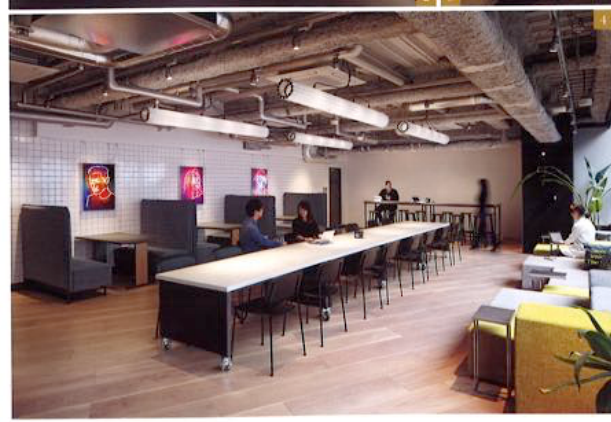


5-10F (客室フロア) PLAN



3F (andwork) PLAN 1:250

1. 4階ラウンジを、大理石が内照するセルフキッチン方向に見る。調色調光が可能なRGB照明や、デジタルサイネージを組み込んだカウンター席で、東京・渋谷の混雑を表現 2. 4階レセプション。宿泊者およびコワーキングスペース利用者に対応する 3. 3階コワーキングスペース「andwork」のエレベーターホールに用意されたソファ 4. 「andwork」は、会員に加えて宿泊者も利用できるで、午前6時30分から翌午前1時までオープンしている。イベント時のレイアウトに対応できるよう、家具にはキヤスターが取り付けられた 5. フォワード夜景。国内外のミレニアル世代を主なターゲットとしており、遊ぶように働き、働きながら旅する「未来のライフスタイル」を提案する



WALNUT A02

cookieboy A01



6



7



8



6. 天井高2.3m、床面積3㎡の空間を構成する、組み立て式の宿泊ユニット「スマートボッド」。20人のアーティストが手掛けた「アートボッド」も展開している。セミダブルサイズのリクライニングベッドは専用のiPodで操作し、アラームと連動可能。7. ベッドの下部はスーツケースなどの収納となる。8. カーテンの裏側は80インチスクリーンとなっており、短焦投影プロジェクターでスマホなどの映像を投影できる。「眠るまでを共用部で過ごす」をテーマに、延べ床面積の約20%を共用部に割いているが、「スマートボッド」内での過ごし方にも多様性を提供する仕掛けが施されている。9. 各客室側に設けた洗面・シャワースペース。

ゲスト同士が交流する パブリックスペース

住人同士の交流を促す集合住宅「ソーシャルアパートメント」を展開するグローバルエージェンツは、人が集まる仕組みと場づくりを目的に、ミレニアル世代に向けたコンセプトホテルを運営している。代表の山崎剛さんは、「一言で説明すると、自由な滞在ができるホテルです。共用部に何らかの機能を付加することで、宿泊客それぞれの個性や嗜好性、ライフスタイルに合った選択を可能にします」と語る。

HOTEL GRAPHY NEZU 札幌・旭川

総合デザイン監修/トーンアンドマター
建築デザイン監修/丸基子一級建築士事務所
カフェ&バーデザイン・フロント改修/graf



共用部には、コミュニティスペースやスタジオの他にセルフキッチンやカフェ、食事に対する自由な選択肢を提供する「GRAPHY NEZU CAFE & LOUNGE」は、ゲストとローカルをゆるくつなぐ、ホテルにおける「玄関」の役割をしている。

ESTIMATE HOTEL 横浜・田舎

設計/トサケン



バーラウンジに人が集まるよう、フロントとバーカウンターを一体化。宿泊客との最初のタッチポイントとなるチェックイン時に、バーラウンジの心地良い空気感を肌で感じてもらう。また、ゲストだけでなく、ローカルも混ざり合うような交流を促すことも意図した。

UNWIND HOTEL & BAR 北海道・札幌

設計/トサケン



バーやロビーラウンジでは、都市型ホテルでありながらログの世界観を再現。喧騒から離れた非日常感と共に、自分らしく過ごすことができる自宅感を演出する。夏の短い札幌では希少なルーフトップテラスを設置し、ゲストが焚き火を囲み話ろう。

The Millennials kyoto 京都・河原町・三条

設計/トサケン



フロントフロアでは、ロビーやセルフキッチンと共に、コワーキングスペース「andwork kyoto」を併設。「ワーク」と「ライフ」を切り分けずオーバーラップさせる空間を提案し、ゲスト同士の交流を促す。毎月のフリービールサービスも設けている。